

認定こども園にじいろ・かっこう幼稚園 研究重点
心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための保育者の援助と環境構成

今回の研究だよりでは、5歳児と2歳児の実践事例を紹介します。
実践事例 5歳児(らいおん組) ~泡はどうやってつくるの?~

【遊びが始まるきっかけ】

水遊びの準備もまだ始まっていない7月のある日。クラス全体に向けて保育者が水遊びの話をする時、子どもたちから「そういえば泡をつかって遊んでいたよね!」と昨年度の年長組の様子を思い出し話す姿がありました。その後、「泡ってどうやってつくるのかな?」「石鹸かも?」と子どもたちの中で疑問が生まれたことで、泡づくりが始まっていきました。



保育者の思い

困ったときや疑問を感じたときに、自分で考えるよりも先に他人に助けを求めがちな子どもが多く、どうすればいいか自分たちで考えていく力を伸ばしたいという保育者の願いがあります。

泡づくりに挑戦!!!

“子どもたちの「やってみたい」を支えるために”

子どもたちの「ふわふわの泡をつくりたい」という思いを汲み取り、水遊びの設定の中ですり鉢やすりこぎ、ボウルやおろし器と石鹸など使用する道具や素材を用意しました。

様々な道具や素材を使う中で、子どもたちなりに試行錯誤しながら泡づくりを楽しみ、疑問や興味をもったことを友達と声に出し合いながら、試していく経験を積み重ねていきました。数名で始まった実験が次第に友達の目にも止まり、沢山の子が泡づくりを楽しむことにつながっていきました。



遊びの中で
こんな会話がありました



泡ってどうやってつくるのかな?
石鹸と水を混ぜてみよう!

泡になったけど
すぐに消えちゃう...



水が多いのかな...?
石鹸を多くしてみよう!

疑問が次々と生まれていきましたが、保育者に助けを求めつつも、「こうやったらどうなるかな?」など前向きに考える子どもたち。昨年度は石鹸をレンジで温めていたことを聞きつけ、やってみることに…「ふわふわになった」と喜ぶ子や「ふわふわじゃない!水が多いのかな?」と考える姿がありました。ふわふわの泡ができた子たちはできたことに自信や満足感を感じているようでした。



次は片栗粉・小麦粉を混ぜてみよう！

片栗粉・小麦粉は泡にならなかった…



チンした石鹸（レンジで温めたもの）で
もっと泡づくりをしたい！

室内で片栗粉や小麦粉で遊んでいたこともあり、子どもたちから「片栗粉・小麦粉でも泡がつくれるかもしれない！」という一言から挑戦してみることにしました。できたものとイメージしていたものは違ったようですが、挑戦できたことに喜びを感じ、試していく中で、子どもたちからの発信も増えていきました。



話し合いから

◎先行体験（遊びの伝承や憧れ）

昨年度の年長児に対しての憧れを感じていたことから、泡づくりに限らずいろいろな遊びが伝承していき、子どもたちのやってみたい気持ちへとつながっていったのではないかな。

◎“失敗する経験”

挑戦する中で失敗することがあっても失敗することで、更なる疑問につながり、「やってみよう！」「こうやったらどうなるのかな？」など自分の考えや挑戦心が生まれる。年長児ならではの追及心、深めたい気持ち、自分で考えることの保障が大切だと思う。

◎融通性

遊びの中で、保育者の予想していた姿とは別の姿が現れることもある。そのため、子どもの思いを受け止めて遊びを展開できるように支えていく。

実践事例 2歳児(こあら組)



ねらいを定めて水鉄砲発射！



どろどろ
面白いね！



こあら組は、2歳児クラスになり、朝や夕方の時間に3～5歳児クラスの友達と一緒に過ごす時間が多くなりました。水遊びを始めたばかりのころは、園庭の角の方で『タライの水に手を触れる』『泥水に足をそっとつけてみる』といった感触遊びが多かったです。

しかし、3～5歳児クラスの水鉄砲やバケツで水をかけあう姿や泥水にも躊躇なく入っていく姿など楽しそうに遊ぶ様子を見て、年長児に水鉄砲の使い方を教えてもらい、友達同士かけあってみたり、泥水の上でジャンプをしてみたりと少しずつダイナミックな遊び方に変わり、遊びの幅も広がっていきました。

異年齢での関わりを大切に、たくさんの刺激を受けながら、様々なものへの興味を広げていけるよう関わっていきたく考えています。